

第3種郵便物認可

むかわ町が公設塾開設

今夏町内高校生対象で無料

【むかわ】町は今夏、町内の高校生が放課後に無料で通える公設塾を町内に開設することを決めた。町内には現在、民間の学習塾がなく、高校入学時に進学校や塾が多い都市部に生徒が流れる原因になっていることから、学習環境の改善を通じ、町内の高校の入学志望者を増やす狙い。町は3月の定例町議会に提出する新年度予算案に、塾の運営費や講師の人件費を含む関連経費を計上する。(仲沢大夢)

鵠川、穂別高入学増狙う

塾に通えるのは、鵠川高(三村素道校長、136人)、穂別高(小野達彦校長、40人)の生徒か、町内在住で町外の高校に通学する生徒。塾では、高校の定期試験対策や大学の受験勉強の授業のほか、就職を目指す生徒の進路相談なども想定している。こうした指導に対応できる講師を複数人採用する予定で、新年度予算案の可決後に公募する。町が塾を開設するのは、両校の入学者の減少に対す

る危機感がある。鵠川高の入学者数は2013年度の80人をピークに下がり始め、20年度は46人。穂別高では11年度の35人から20年度は10人に減り、この10年間で最少だった。町は少子化に加え、学習環境が充実した都市部への生徒流出が背景にあるとみて、公設塾の開設で格差解消を図る。町、鵠川高、穂別高は9日、塾の田舎な運営に加え、両校の魅力を高めて入学者の確保や地域活性化につな

げるため、連携協定を結んだ。今後、教育活動や学校行事を含め、具体的な連携内容を話し合う。町教委は「両校生徒の交流が促進さ

れ、お互いの刺激につながれば」と話す。同日、町産業会館で締結式が開かれ、竹中喜之町長と両校の校長、生徒会役員が出席した。三村校長は「協定締結により高校魅力化を進め、関係人口の拡大と地方創生につなげたい」と話し、小野校長は「連携協定の締結は非常に心強い。今後いろいろな場面で協力させてもらいたい」と期待した。



締結式に出席した(上段右から)三村素道校長、竹中喜之町長、小野達彦校長と鵠川高、穂別高の生徒会役員